

平成 30 年度第 3 回 あま市地域公共交通会議録要旨

平成 31 年 3 月 27 日（水）

午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで

あま市役所本庁舎 3 階 特別会議室

1 出席者等

出席者等（委員）	16 名
（事務局）	7 名
（傍聴者）	1 名

2 議題

- （1）利用状況について
- （2）あま市巡回バスのあり方を定める「指標項目」等について
- （3）あま市巡回バス試行運行に関するアンケート（案）について

【主な質疑等】

（1）利用状況について

（座長） 各路線の乗り継ぎというものは把握しているか。

（事務局） OD調査は行っていないため、把握はできていない。

（座長） 降車の利用者が多い停留所へ多くの停留所を経由する路線としたため、狙い通りの結果が得られている。

月別や路線別の利用者数は折れ線グラフを利用すると、経年的な変化や月別の利用など確認しやすい。

（委員） 七宝焼アートヴィレッジが目的地で乗車しているのか、他の路線に乗り継ぐために乗車しているのか確認したかったが、可能であれば調査すると良い。

南部巡回ルート of 左回りは、七宝総合福祉センターで乗車が多いが、その後、降車する停留所は少ないが、七宝焼アートヴィレッジで降車するのか。

（事務局） 七宝焼アートヴィレッジでの降車が多くなっている。また、あま市役所七宝庁舎での降車も多い。あま市役所七宝庁舎の停留所は近くにスーパーやスポーツジムも併設されているため、そちらを利用される方も多いのではないか。

（座長） 場合によっては七宝焼アートヴィレッジで乗り継いでいる可能性もあるかもしれない。乗降調査から生活パターンが見えてくるた

め、それに合わせたダイヤ等を設定すると利用者が増えてくる可能性が十分ある。

東部巡回ルートは甚目寺駅と七宝焼アートヴィレッジに行くためのバスになっており、目的が明確化されている。その他の目的地になりうる場所が東部巡回ルートにはない。

(事務局) 東部巡回ルートは、七宝焼アートヴィレッジ及び甚目寺駅の利用者が多い、あま市民病院は、病院でバスを運行しており、あま市巡回バスを利用してあま市民病院に行く方はさほど多くない。コミュニティプラザ萱津においては、もう少し利用者が増えるのかと思ったが、思った以上に利用者が伸びない。

(座長) 徒歩又は自転車で移動している可能性もある。雨の日等は巡回バスを利用しているかもしれない。

他の方の利用方法などを公表することで利用者が増えるが、実は行政が行わず口コミで広がっていくというのが一番良いと思っている。

(委員) 他の路線でも入浴施設がある施設の停留所は利用者が多いが、東部巡回ルートは地域性や自転車で通えるなどの違いがあるかもしれない。

施設にどのような設備があるのか知られていない可能性もある。停留所の近くにある施設等を周知することで利用者が徐々に増えていくのではないか。

(事務局) 巡回バスマップも公共施設のみを表記しており、分かりにくいとのご意見を頂いている。巡回バスマップも分かりやすいもへ変更したいと考えている。

(座長) 施設ごとに入浴施設の利用者数は異なるのか。

(事務局) 施設ごとの入浴施設の開設日と巡回バスの利用状況を照らし合わせながら確認する。

また、東部巡回ルート上にはコミュニティプラザ萱津以外にも入浴施設が数か所あり利用者が分散している可能性もある。ご自宅近くに入浴施設があるため巡回バスではなく徒歩や自転車を利用する方が多いことから利用者数は伸びてこない。

(座長) 特性があって面白い。利用者数と曜日を確認いただきながら利用者が伸び悩んでいる理由を考察していただくと良い。

バスマップは、目的地をしっかりと表記することが重要。病院やスーパーなど目的地が表記されていないバスマップでは、あま市巡回バスをどう利用すれば良いか分からない。

(委員) あま市だけに拘らず、あま市の近隣自治体のコミュニティバスの停留所も記載していると良い。ダイヤを合わせるなど可能であれば

近隣自治体と調整することで相互に利益がある。

バスマップに色々反映することで、利用者も増え、利用者に対しても利益が増えることとなる。

(座 長) 引き続き利用状況を確認し、改善に結びつけて頂きたい。

(2) あま市巡回バスのあり方を定める「指標項目」等について

(座 長) 確認項目は、目標を定めるわけではなく、状況を確認するためのもの。指標項目というのは、評価し判断をするものか。

指標と項目は非常に似た言葉のため、指標と項目の羅列だと意図が伝わらない。指標項目で評価するのであれば評価項目が良い。

(事務局) 指標項目の数値を見て判断していく。

(座 長) どのように判断するのか。

(事務局) 明確な数値を設定する。指標項目のうち、特に重要となる項目を重点項目とし、最低限満たす必要があるものとする。

また、その他の数値から総合的に判断し、平成33年度以降のあま市巡回バスのあり方について決めていく。

(委 員) 無料乗車の利用割合は高ければ良いという考え方か。

(事務局) あま市巡回バスの目的に沿った運行ができているという判断ができるため、高い方が良いと考えている。

(委 員) 無料乗車の対象外となる方でも移動に困っている方は居ると思うが。

(事務局) あま市巡回バスの運行目的は、利用に困っている高齢者等の日常生活を支えるためとしている。目的に沿った運行を限られた財源の中で行っていくため、無料乗車の利用割合を採用していきたいと考えている。

(委 員) 無料乗車の利用割合を達成しようとする、収支率が悪くなるが、確認項目なのでやむを得ないということか。

(事務局) 無料乗車の割合が増えれば収支率が下がる相反する指標となる。しかし、収支率を無視するという訳にはいかないと確認事項とした。

無料乗車の利用割合は、目的に沿った運行が達成されているのか判断する大変重要な項目のため指標項目とした。

(座 長) いろんな地方でもコミュニティバスの運行の存続が厳しい状態がある。「1人当りの輸送費用」は、運賃収入は考えない方が良い。運行経費÷利用者数とし、利用者数は重要で多く乗ってほしいという意思表示となる。1人当りの輸送費用はできるだけ少ない方が良く、効率性を求めることになる。

本当に困っている方々をまず救うという目的を明確にする。

「市民1人当りの経費負担額」、「歳出に占める運行事業費」はサービス水準を図るうえでは必要となるが、運行経費はその時々燃料費や人件費によって変わるためコントロールし難い部分となる。

「1人当り運行経費負担額」は人口が増えれば減っていく。「歳出に占める運行事業費」は景気変動する。指標項目では厳しいと考える。経費も予算の議決が必要になるため、これらの項目によって継続等判断するのは少し違うのではないか。

(事務局) ご意見の通り、「1人当りの経費負担額」、「歳出に占める運行事業費」は、地域公共交通会議の中で議論したところで数値をコントロールできるものではない。しかしながら、サービス水準を図るうえでは確認をする必要があることから、この2つの項目は確認項目として今後検討していきたい。

(座長) 地域公共交通会議では、ルートやダイヤ等々決めることはできるが、予算については決める権限はない。こちらは確認項目とする。

(事務局) 事務局から再度提案ということになるが、本日提案させていただいた、「無料乗車の利用割合」は、先ほどの議論を受けて、あま市巡回バスの総利用者数も伸ばす必要があることから、割合ではなく、「無料乗車の利用者数」として、「数」で判断したいと考える。

(座長) 「無料乗車の利用者数」を指標項目とするのであれば、「収支率」も指標項目で良いのではないか。また、行政サービスとして何%は市民に負担してほしいという項目があっても良い。

(委員) 無料乗車の対象となる方を運ぶことを目的に設計された交通ネットワークのため、収支率を上げることは非常に難しい。仮に設定するとしても非常に低い目標を設定する必要がある。仮に確認項目としても数値の検討は必要となる。

(座長) 数値の検討は必要。利用していない方々に対しての説明責任となる。目標数値は1%とかにはくるとはなるが、その1%でご納得いただけるか。

(委員) 数字の考え方だが、無料乗車で乗った人も市が費用を負担しているという考えをすると、収支率は一気に変わる。みなし収入で表せば説明しやすい。

(座長) もし無料乗車の方も運賃を均等にいただいた場合の収支率。ただし施策としては75歳以上等の方々は無料としているため、実際の収支率とはまた違う。

(事務局) あま市巡回バスでは75歳以上を無料にしているが、県内でも高齢者を無料にしているコミュニティバスというのは大変少ないため、他の自治体とも比較した場合、あま市の収支率は非常に低い。みなし収支率という考え方は、一度協議させていただく。

- (委員) 高齢者の定義を75歳以上ではなく65歳や70歳にし、運賃を無料ではなく半額とするなどの検討も必要である。
- (事務局) 現在は75歳以上の方の運賃を無料としているが、高齢者の方々から、「お金を徴収していただいても構わない。その分事業を充実させてください。」とご意見を頂いた。そういった意見を持った高齢者の方々が多いため、運賃設定については改めて検討していきたい。バスに乗って外出するということが運動となり、より高齢者の方々が健康になっていただけるのではないかと考えている。バスを利用することで少しでも健康になり、市民の方々が健康に過ごしていただけるような、まちづくりにあま市巡回バスが一翼を担っていければと思っている。巡回バスのあり方について今後も検討していきたい。
- (座長) 是非そのような形になっていくと良い。介護予防はすごく大切であり、日本全体の問題となっている。健康の長寿を伸ばしていくことが必要であるが、それに対し公共交通が貢献できる役割は非常に大きい。一歩歩く事でどれぐらいの医療費削減が可能かというデータも出てきている。それらを参考に医療費に使われている費用を公共交通へ回すという考えが出てきても良い。
- あま市巡回バスに乗車して利用できる時間帯に様々なプログラムを実施することが第一歩。また、あま市巡回バスを利用して買い物を行った場合、ポイントが倍貯まるなどの事業を行っていくと、利用が増え出歩くようになり、そして健康で居続けられる。
- (座長) 一部の項目の数値の算出方法に平成28年度アンケート結果とあるが、平成31年度にアンケートを実施するのか。
- (事務局) 本日の議題でもあるアンケートをこの後協議し、そのアンケートの結果を元に数値を算出する。
- (座長) 重点項目は、本日の会議にて協議を整えるのか。
- (事務局) 重点項目は、資料2の指標項目の中から3点ほど選び協議を進める予定であったが、今回確認項目と指標項目について多数のご意見を頂いたため、重点項目について説明のみとする。
- (座長) 同じ人口規模や周辺自治体の状況も参考にお示しいただきたい。判断として、やめるのか続けるのか、或いは延長するのか、また一部やめるとか、どういう判断になるのか。
- (事務局) 重点項目は満たし、指標項目のうち満たしていないところがあれば、本格運行しながら、改善し随時見直しを行っていく。いきなり運行か廃止の判断をするのではなく、仮に廃止となった場合であっても、代替案を検討し市民への周知を含め検討していく。
- (座長) 路線ごとで判断はしないのか。

(事務局) 今回のあり方を検討した後、運行方法の検討も含めて協議していきたい。

(座長) 路線ごとに判断できるものが平均利用者数だけ。路線ごとに判断するのであれば、少なくとも路線ごとに評価しなければ、判定は難しい。乗り継ぎも考慮する必要がある。場合により各項目とも路線別に数値を出せるようにしておくが良い。

(3) あま市巡回バス試行運行に関するアンケート(案)について

(委員) 4ページの問2、「該当する項目すべてに○をつけてください。」とあるが、知らないところは空白で良いのか。

(事務局) 「ご存知の項目に○をつけてください。」に修正する。

(座長) 「ご存知の項目に○をつけてください。」では、項目に○をつけてしまう。

(事務局) 「ご存知の項目の回答欄に○をつけてください。」とする。

(座長) 「すべて」を取り除き、複数回答の場合は、知っているものに○をつけてもらう。

(委員) 問7、回答によっては路線の変更等で市外へ出ていくということもあり得るのか。

(事務局) アンケートの回答を受けて2、3年以内に路線を見直すことはないが、将来的には路線の変更も考えていきたい。

(委員) この設問では、現状の巡回バスでどこへ行けると良いのかのよう
に捉えられる。

(座長) 今の巡回バスを想定してもらうのか、今ではなく、どこでも良い状態の中で行けると良いと思うのか。事務局としてはどちらを想定しているのか。

(事務局) どこでも良い状態での設問となる。

(座長) そういう意味であれば、このままで良い。

(委員) 問7に関して目的地を自由記載にすると、名古屋駅等が回答として出てくる、事務局とし、実現可能なものをある程度オプションとして提示した方が、より現実的な回答が得られる。

(座長) 繋ぐ等意向があれば行って良いと思うが、覚悟が必要。良いご提案だがこのままでいく。

問8、④の記述は少し違うのではないかと。費用負担の設問のためあま市巡回バスの運行に市の費用負担を行うべきではないと言う意味だと思うが。

(事務局) 回答②は、「現状の費用負担で運行すべき」としていることから④は、「市の費用負担では運行すべきではない」とする。

(座長) 設問2は「ご存知の項目の回答欄に○をつけてください」へ修正。

設問7は現状通り。設問8は「③路線や運行本数を減らす等し、市の費用負担を縮小すべき」、「④運行に対して市が費用を負担すべきではない」とする。

その他細かなところは、事務局に一任する。

アンケート結果を算出し、指標項目として、「あま市巡回バスの認知度」、市民の理解度は設問8の①、②の回答。利用頻度は設問4で得られる。

【その他】

なし